

を巡って描かれた様々なイメージを、絵画と版画を中心に、近世から現代まで、また西洋美術から日本のものまで幅広く見てみようとするものです。もちろん一口にユートピアといってもその解釈は様々です。この展覧会では4つのテーマを設けて、会場を構成しています。この展覧会を見る体験は、言ってみれば、4つの国をめぐり、「どこにもない場所」を探しに出かける旅のようなものです。この旅にぜひ出かけてください。

ユートピアを探しに 想像力の彼方へ

「ユートピア」というと、皆様はまず何を思われるでしょうか。恐らく、理想郷や楽園とほぼ同じ意味の言葉として、明るさに満ちた憧れの世界を思い描くのではないのでしょうか。本来は18世紀前半のイギリスで当時の国情を憂いたトマス・モアの著作に由来するものです。理想的な国家として語られるこの架空の国の名が「ユートピア」で、ギリシア語の「どこにもない場所」を意味する語から来ています。

この展覧会は、ユートピア

1 天上の世界へ — 世俗を越えて —

第1部では、いきなり人智を超えた彼岸の世界へと皆様を誘います。清澄な浄土や天女たちの姿、光あふれる静謐なキリスト教の天国や、その対極の激しく暗い地獄の世界も垣間見ます。



サー・エドワード・コリー・バーン=ジョーンズ
『ヤコブの梯子』(『フラワーブック』から)
1905年刊行 リトグラフ
郡山市立美術館蔵

ギュスターヴ・ドレ
『太陽天』(『タンテ(天国篇)』から)
1868年 木口木板
町田市立国際版画美術館蔵

2 自然の中へ — 東西の理想郷 —

ここでは、人々が憧れた理想的な世界を東西の文化の中にたどってみます。蓬莱山、武陵桃源といった東洋の伝統的なテーマから、古代世界の牧歌的な情景、南方楽園といった様々なイメージを巡ります。



田崎草堂
『蓬莱山宮園』
1874(明治7)年頃 絹本着色
足利市教育委員会・草堂美術館蔵

ラファエル・コラン
『田園恋愛詩』
19世紀末-20世紀初頭 油彩、キャンヴァス
府中市美術館蔵



小野竹露 『武陵桃源』
1918(大正7)年頃 絹本着色
茨城県近代美術館蔵

3 創られた場所へ — 建築の夢と幻 —

自然の中を探ったあと、第3部では一転して、人が造りだした都市の夢をたどります。“古代”妄想ともいえる過剰なイメージにあふれるピラネージの版画や、実現不可能な幻想的な建築物などを見ます。



ジョヴァンニ・パッティスタ・ピラネージ
『古代アッピア街道とアルテアティーナ街道の交差点』
1756年刊行 エッチング 町田市立国際版画美術館蔵

4 あなたの周りで — しあわせのひととき —

「どこにもない場所」を巡る旅の最終章で、われわれは身近な日常に帰ってきます。現在ではむしろ、社会全体に共通する大きな理想像を描くのは、以前よりも困難になっているのかもしれませんが。最後に、あなた自身にとって「ユートピア」とは何か、思いを巡らせてみてはいかがでしょうか。



ビエール=オーギュスト・ルノワール『読書するふたり』
1877年 油彩、キャンヴァス
群馬県立近代美術館蔵

〈観覧料〉一般／800円(前売券)600円、大・高生／500円、中・小生／300円

2005年10月29日(土)～12月11日(日)

京都国立近代美術館所蔵 日本画名品展

2005年9月10日(土)～10月23日(日)
 <観覧料>一般:800円(前売券:600円)、大・高生:500円、中・小生:300円

京都国立近代美術館のコレクションは、西日本の美術に比重を置いています。中でも江戸後期の円山・四条派を継承した、京都画壇を中心としたコレクションは質量ともに国内で屈指の存在です。また、京都画壇以外にも、国立の近代美術館として、日本の近代美術史を俯瞰できる名品を数多く有していることも特筆すべきでしょう。その京都国立近代美術館の収蔵品の中から、このたびは日本画部門の作品を選び紹介します。

日本の絵画は、明治に入ると、その存在を根底から揺るがすような大きな影響を受けることになりました。以降、日本画・洋画といった二立背反や自己矛盾などを内包することが避けられなくなり、絵画をめぐる様々な社会的混沌がはじまります。日本画家は、日本固有の絵画としての自立性を絶えず自問しながら表現してきたのです。本展では、京都国立近代美術館の約650点の日本画コレクションの中から、その激動の時代を象徴する名品、そして今日なお日本画の可能性を追求し続けている現存作家の作品を紹介します。

主な出品作家は、円山四条派の竹内栖鳳や上村松園、西洋的物質性を超越した朦朧体という様式で知られる横山大観、菱田春草や、文展を離脱し国画創作協会を結成した土田麦僊、小野竹喬、格調高い新古典主義を確立させた小林古径や安田靉彦、官展に新風を起こした金鈴社を設立し風俗を情緒豊かに



上村松園《舞文展》1914年

に描いた鍋木清方、円山四条派からやがて象徴的な表現を多用した福田平八郎、大観に認められ日本美術院で活躍した富田深仙、そして、現代の加山又造、平山郁夫らまでの約70名。これらの作家の名品を通し、近代以降の日本画の流れを体系的にとどめます。日本画とは何か、日本独自の美意識とは何かを考えるよい機会となるでしょう。



横山大観《山路》1911年頃

所蔵品展

<観覧料>一般:300円、大・高生:150円、中・小生:50円

From the collection

「田園と都市：暮らしの情景」

2005年4月29日(金)～6月26日(日)

私たちの暮らしは、周囲の自然と密接な関わりを持っています。日本の原風景ともいえる農村や漁村の風景、刻々と変化していく都市の姿、そして私たちが住む新潟の懐かしい風景をテーマにした作品を選び、風景と人々の暮らしとの関わりを追っていきます。

「7人の新潟の洋画家たち」

2006年2月18日(土)～3月31日(金)

所蔵品の中から新潟県で生まれ育った、物故の洋画家7名の作品を展示します。取り上げる作家は、安宅庸雄(1902-89年)、小野末(1910-85年)、佐藤哲三(1910-54年)、竹谷富士雄(1907-84年)、田中道久(1915-81年)、富岡惣一郎(1922-94年)、三芳悌吉(1910-2000年)の7人です。各作家の作品をまとめて紹介しますので、7つの小さな回顧展をご覧ください。

万代島美術館(2004-05)イベント報告

◎ミッフィーとの撮影会

「ディック・ブルーナ展」の開催記念イベントとして、ミッフィーとの撮影会を行いました。最初はお子さんとミッフィーとのツーショットを考えていましたが、やっぱり家族全員で撮りたいとの声が多く、担当学芸員がシャッター押しの係をつとめました。およそ300名の方が参加しました。



◎古代エジプトの象形文字に挑戦

古代オリエント博物館の村治笙子さんを講師にお迎えして、子ども向けのワークショップを開催しました。象形文字の書き方を習って自分の名前を書いてみたり、昔のエジプトの王様の衣装を身に付けたりして、古代エジプト文明について勉強しました。一緒についてきたお父さん、お母さんの方が夢中になっていました。



◎高階秀爾氏講演会

10月3日(日)

大原美術館の館長で、「名画を見る眼」などの著書でおなじみの、高階秀爾さんの講演会を開催しました。「大原コレクション 日本と西洋の出会い」というタイトルで、大原美術館の収集の経緯と歴史をわかりやすく解説していただきました。当日は大雨でしたが、それにもかかわらず大勢の方が聴講しました。

◎大英博物館の至宝展

2004年度でもっともにぎわった展覧会。大英博物館から6人の学芸員が来日し、一緒に準備をしました。二ヶ月の会期中、14万人もの来館者が、エジプトのミイラやレオナルドの素描、中国の青銅器などを堪能しました。写真は、会期初日に開催した記念講演会の様子。中世ペルシア美術が専門のシーラ・キャンビー博士に、「大英博物館の250年」というテーマでお話していただきました。



◎ミュージアム・コンサート

10月10日(日)

大原美術館展を記念して開催したコンサートです。美術館を会場として、中林恭子(フルート)、庄司愛(ヴァイオリン)、奥村和雄(ピアノ)、渋谷陽子(チェロ)のふりゅーとカルテットによる四重奏で、モーツァルトやハイドンの曲を楽しみました。

地球を生きる子どもたち

2005年7月2日(土)～9月4日(日)

〈観覧料〉一般：800円(前売券：600円)、大・高生：500円、中・小生：300円

19世紀前半に写真が発明されて以来、子どもたちはその被写体として数多くの写真家を魅了してきました。子どもをテーマにした写真展はこれまでも数多くありましたが、子どもの写真によって約1世紀半の歴史を地球規模で見渡す今回の展覧会は、世界でも初めての試みです。また、子どもというテーマで、世界中からこれほど多くの著名な写真家の作品が集まることも例がありません。本展には、ロバート・キャバヤアンリ・カルティエ＝ブレッソン、土門拳や荒木経惟、そして新潟にゆかりのある濱谷浩ら、国内外のあわせて200余名の写真家が、60数カ国で撮影したおよそ260点の写真が展示されます。



ルイス・W・ハイン 《製糸工の少女》
1908年 アメリカニューイングランド地方
Courtesy George Eastman House

二度の世界大戦やスペイン内乱、パレスチナ問題、ベトナム戦争、アフリカ飢饉、チェルノブイリ原発事故、旧ユーゴ紛争やイラク戦争、そして昨年ロシアでおこった学校占拠事件などで、傷つき、命を奪われた子どもの姿が写し出されています。「地球を生きる子どもたち」展は、戦争や社会的混乱を生き抜き、あるいはその犠牲となった子どもたちの現実を直視することにより、世界の平和が実現することを願う展覧会です。

子どもたちの写真を通して、いかなる国家や地域、民族、性に生まれても平等に育てられるべき生命の証しや、人間本来の生命力を感じとってもらうことを願っています。



そして同時に、大人が作りだした社会状況の犠牲となった子どもの姿を直視する強い意志をもつことが、地球に生きる私たちの明日への道しるべとなることでしょう。

フィン・コン・ウト(AP)
《戦争の恐怖》
1972年6月8日
ベトナム チャンバン近郊
AP/WWP

◎チャイナドリーム展

2004年10月23日、新潟県を震度7の大地震が襲いました。震源からやや離れ、免震構造でもあったため、幸いにも当館では被害がありませんでした。しかし、その日はちょうど「チャイナ・ドリーム」展の初日。新幹線が寸断されてしまい、東京からの人たちが来られなくなってしまいました。坂下正夫さんによる二胡のコンサートも、残念ながら中止となりました。



◎ライアーの調べ 1月23日(日)

「新潟に育った作家たち」展を記念してライアーによるコンサートを開催しました。ライアーとは、古代ギリシア時代からの古楽器の流れを受け継ぎ、20世紀初頭にドイツで考案された竖琴で、映画「千と千尋の神隠し」の主題歌の伴奏にも使われました。「冬景色」「ペチカ」など馴染みの曲を、アンサンブル・ムーサの皆さんにライアーで演奏していただきました。

◎作家の横顔 - 知られざるエピソード 1月30日(日)

「新潟に育った作家たち」展を記念し、会津八一記念館館長の神林恒道さん、新潟フランス協会副会長の中田健介さん、当館館長の横山秀樹の3人により、新潟の画家、工芸作家のエピソードを語っていただきました。100名を超す方々が参加され、たいへん盛況な会となりました。



創刊50周年 みんなのともだち「こどものとも」の絵本 (仮称)

2005年12月23日(金)～2006年2月12日(日)

〈観覧料〉一般：600円(前売券：400円)、大・高生：300円、中・小生：200円

今や世界各国の言葉に翻訳されている『くりとぐら』シリーズ、「うんとこしょ、どっこいしょ。それでもかぶはぬけません。」でおなじみの『おおきなかぶ』などの絵本は、誰でも一度は読んだことのある、いわば「古典的な」絵本と言えるでしょう。これらは、1956年から福音館書店から月に一度発行されている物語絵本「こどものとも」の一冊として配本されたものでした。



山脇百合子 絵
『くりとぐらのかいすいよく』(表紙) 1976年
宮城県美術館蔵

「こどものとも」は、冒険やファンタジーの楽しい物語、日本や世界の昔話、動物、乗物、生活など、バラエティーに富んだ内容で発行され、2006年には創刊50周年を迎えます。また、毎号一つのお話に一人の画家が絵を付けており、洋画家や日本画家に限らず、彫刻家やデザイナーなどの分野で活躍している様々なジャンルの作家が参加し、様々な表現が試みられてきました。



この展覧会では、戦後の絵本史の中でも高い評価を受けている「こどものとも」の創刊50周年を記念し、約250点の原画や絵本により、「こどものとも」の歩みと絵本の魅力を紹介します。子どもの時に読んだ絵本が懐かしく思い出されると同時に、あの有名な作家がこの本の作品を手掛けていたのかなどと、意外な発見がある展覧会となることでしょう。

畑文子 絵「ピッピとちやうちやう」
(表紙・裏表紙) 1956年

美術鑑賞講座が大幅拡大!

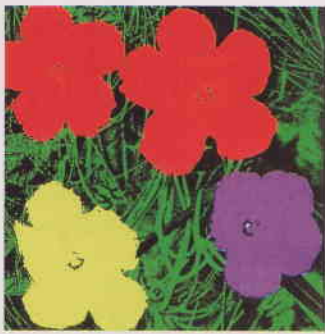
万代島美術館ではこれまで、展覧会に直接関連したテーマや学芸員の専門分野を分かりやすく解説する美術鑑賞講座を、ほぼ隔月で開催してきました。2005年度は、これが全10回に拡大され、毎月第3土曜日(12月、3月を除く)に開催される予定です。もちろん聴講無料! 各回のテーマや担当学芸員については、万代島美術館のホームページ等でご確認ください。

お客様の声より

万代島美術館が開館してもうすぐ2年になります。「大英博物館の至宝展」では14万人もの来館者を迎えるなど、数多くの方にご来館いただきました。ここでは、お寄せいただいたアンケートやお問合せの中から、多かったものをご紹介します。

- Q1. 小さな子どもがいるのですが、行っても大丈夫でしょうか?
- A1. ぜひともお子様に本物の美術に触れる機会を与えてあげてください。ベビーカーの無料貸し出しもしております。乳児をお連れの場合でも、美術館には授乳室を設置していますので、授乳もできますし、オムツ換えもできます。ご来館をお待ちしています。
- Q2. モネやゴッホ、ルノワールなど、海外の有名な画家の展覧会をぜひやってください。
- A2. 海外のコレクションを中心とした展覧会を開催するには、作品の輸送費のみならず、作品にかかる保険料も莫大な金額になりますので、このような大規模な展覧会を毎年のように開催するというわけにはいかないのが現状です。その一方で、国内の美術館の優れたコレクションを中心にして構成したり、所蔵品を新たな切り口で展示することによって、いつでも新しい発見がある展覧会を企画していきます。ぜひ足を運んでみてください。
- Q3. 駐車場の料金がかかるのが納得いきません。無料にしたらどうですか?
- A3. 万代島美術館は市街地のビルの中にある美術館であるため、郊外型の美術館のような独自の駐車スペースがありません。美術館と同じビルにある日航ホテル内のレストランや2階のレストラン街で食事をされると、朱鷺メッセ駐車場の駐車割引券が発行されます。ご理解いただければ幸いです。

COLLECTION / 所蔵品紹介



©The Andy Warhol Foundation for the Visual Arts / AFS, NY / SPDA, Tokyo, 2006

アンディ・ウォーホル「花」1970年

アンディ・ウォーホルは、ポップ・アートの第一人者として20世紀美術に大きな足跡を残し、また、今日の美術に多大な影響を与えたアメリカの作家です。

「花」はウォーホルの代表的なシリーズの1つ。1964年、レオ・キャステリ画廊で初めて発表され、翌年も、パリのイリアナ・ソナベント画廊で同シリーズをテーマとした展覧会が開催されましたが、その直後にウォーホル自身が画家引退宣言を行っているため(現実には撤回されました)、いわば当時のウォーホルにとっての「最終作」でもあります。1970年の大回顧展の際にも出品されており、本作はその流れに位置するものと考えられます。

題材にされているハイビスカスの花は、広告の写真に使用されていたものをそのまま流用したもので、ウォーホルの「反芸術」の精神が見られます。また、1960年から1976年にかけては、ウォーホルの芸術を特徴付ける要素が全て出そろい、全ての重要な作品が制作されたと考えられています。この作品はその最盛期に位置するものの一つと言えます。

展覧会スケジュール

2005	4 April	7人の新潟の写真家たち (4月1日~4月24日)
5 May		田園と都市:暮らしの情景 (4月29日~6月26日)
6 June		
7 July		地球を生きる子どもたち (7月2日~9月4日)
8 August		
9 September		京都国立近代美術館所蔵 日本画名品展 (9月10日~10月23日)
10 October		ユートピアを探しに 想像力の後方へ (10月29日~12月11日)
11 November		
12 December		
2006	1 January	みんなのともだち 「こどものとも」の絵本 (12月23日~2006年2月12日)
2 February		
3 March		7人の新潟の洋画家たち (2月18日~3月31日)

※展覧会名は仮称です。また、会期は変更されることがあります。

2004年度新収蔵作品の紹介 ~新潟県立万代島美術館・新潟県立近代美術館~

分野	作家名	作品名	制作年	
日本画	大野 俊明	京都	1998	
	三輪 昶勢	草の上	1947	
		アダチオ	1949	
		街	1951	
		黄色い椅子	1956	
		ボンベイの女	1967	
		星 兼雄	階段のある一変容・Ⅲ	1981
	版画 (一部資料)	下沢 木鉢郎	深澤家一肖像	不詳
		深澤 素一	『新東京百景』築地等木版画31点	
			『HANGA』第一輯	1924.2.1発行
		『HANGA』第九・十輯(合輯)	1926.7.5発行	
		『HANGA』第十一輯	1926.11.5発行	
		『版藝術』第一年第四号	1932.7.1発行	
	郭 徳俊	フォードと郭	1975	
水彩画	深澤 素一	『新智識』表紙原画	不詳	
素描	小島 丹彦	《待つ》小下図7点	1965頃	
	深澤 素一	挿絵原画12点	1946	
工芸	市橋 敏雄	艶容(噴水)オーバルコンポジション	1965	
		桃源の夢	1976	
		吹分オペリスク 南冥の鎮魂碑	1995	
		銅型青銅パネル 風林火山	1997	
写真	堺 時雄	写真 47点		

分野	作家名	作品名	制作年
デザイン	松永 真	ポスター 65点	1971-2004
資料	猪爪 彦一	風景	1987
	上村 淳之	鶯	不詳
		紅ヒワ	不詳
	後藤 純男	新雪塔映	不詳
	堺 時雄	紙焼写真、ガラス原版等1,288点	
	柴田 長俊	白雨	不詳
	清水 規	富岳	不詳
	白井 進	杜	不詳
	中山 寛郎	阿賀野川	不詳
	服部 一成	『流行通信 Extra issue GRAPHIC』	2004
	『流行通信』(2002年9月号~2004年8月号)	2002-2004	
	番場 春雄	山村雪晴	不詳
	深澤 素一	絵葉書等4点	不詳
	牧野 廣圓(廣吉)	洲崎義郎胸像	1991
	山崎 隆夫	花鳥瀟	不詳

寄贈者一覧(50音順)

市橋敏雄氏 大野俊明氏 亀倉雄策賞事務局 堺時雄氏遺族 杉山寛治氏 洲崎淑氏 原武子氏 深澤不二人氏 星兼雄氏 松永真氏 三輪晃久氏 郭徳俊氏 10周年記念新潟県立美術館友会の会

新潟県立近代美術館と万代島美術館で収蔵している作品は、両館の共有となっています。

新潟県立近代美術館の企画展



新潟県立近代美術館

〒940-2083 新潟県長岡市宮関字居掛278-14
TEL 0258-28-4111 (代表) http://www.lalanel.gr.jp/kinbi/

良寛遺墨展
— 御三家を中心に

7月16日(土)~8月21日(日)

良寛の遺墨が国の重要文化財指定を受けてから四半世紀、また、県指定も半世紀になります。新潟に残る数々の遺墨を、良寛ゆかりの御三家をはじめ、個人、博物館等のご協力のもと、重要文化財から県市町村指定文化財、そして未指定の名品まで、良寛遺墨の粋を一同に紹介し、ご覧いただけます。

ケーテ・コルヴィッツ展

9月3日(土)~10月23日(日)

20世紀前半のドイツ表現主義を代表する版画家、彫刻家であり、当館収蔵作家であるコルヴィッツの初期から晩年までを辿る大規模な回顧展です。2つの大戦を経験し、近親者を亡くした女性芸術家として、コルヴィッツの作品は今を生きる我々に強いメッセージを発し続けています。

昭和の美術 1945年まで
—〈目的芸術〉の軌跡

11月3日(木)~12月11日(日)

戦後60年をむかえる本年、時代の大きな転換期となった昭和初期の美術を再見する展覧会です。この時代に顕著なプロレタリア美術運動と戦争美術は、ともにプロパガンダを目的に美術を手段とし、絵画をはじめ様々な形式を用いて展開した、〈目的芸術〉でした。多分野の作品によってその軌跡をたどります。

【開館時間】午前9時~午後5時(観覧券販売は午後4時30分まで)
【休館日】月曜(ただし月曜が祝日の場合は開館し、翌日休館)、年末年始、臨時休館あり。

新潟県立万代島美術館

開館時間

午前10時~午後6時(観覧券販売は午後5時30分まで)

休館日

月曜(月曜が祝日の場合は開館し、翌日が休館)。年末年始と展示替期間は完全休館。

観覧料(所蔵品展)

一般/300円(240円) 大・高生/150円(120円) 中・小生/50円(40円)

※()内は20名様以上の団体料金です。障害者手帳・療育手帳をお持ちの方は無料です。また、土日祝日は小中学生は無料です。企画展は展覧会ごとに料金が異なります。

観覧料免除

新潟県内の小・中・高校・特殊学校が、教育活動として美術館に団体引率をする場合、所定の用紙で事前(見学の1週間前)申請をすることにより、観覧料が免除されます。園芸・美術の授業、社会科見学、遠足など様々な形でご利用いただけます。

HOW TO ACCESS
The Niigata Bandaijima Art Museum



■新潟駅(万代口)から

バス約15分
(新潟駅バスターミナル6番「佐渡汽船」行き、「朱鷺メッセ」下車) タクシー約8分
徒歩約25分

■自動車(有料駐車場あり)

新潟中央IC料金所より...約20分
紫竹山ICより...約15分

■信濃川ウォーターシャトル

新潟ふるさと村から...約50分
新潟市歴史博物館から...約5分

万代島美術館は、万代橋と佐渡汽船ターミナルの間にある「朱鷺メッセ」内万代島ビル(ホテル日航新潟と同じビル)の5階にあります。※ 有料駐車場についてのお問い合わせは、朱鷺メッセ(TEL025-246-8400)をお願いします。

B.island

新潟県立万代島美術館ニュース 第4号
発行日 2005年3月25日
編集・発行 新潟県立万代島美術館
〒950-0078 新潟市万代島5-1 万代島ビル5階
TEL 025-290-6656 FAX 025-249-7577
URL http://www.lalanel.gr.jp/ba/ni/